

第6章

自然と調和する住みよいまち

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)											
				会計	投入コスト		活動実績(R3)	成果指標			総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)										
611	市街地整備課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	B	R3年度に改善した点	8. 働きがいも経済成長も	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基盤を作ろう	11. 住み続けられるまちづくりを											
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加													610,759千円	610,759千円	①各地区で開催・出席した説明会、勉強会、役員会、総会の合計数(地元主催を含む)	土地利用転換を図る地区数 ・旧暫定逆線引き地区 6地区 (下安松東、上安松・下安松西、下安松中央、北中、上山口、牛沼) ・土地利用転換推進エリア 3地区 (三ヶ島工業団地、関越自動車道所沢IC、松郷工業団地)	・旧暫定逆線引き地区は、土地区画整理事業の実施もしくは用途地域の指定の廃止により解消することを指標とする。 ・土地利用転換推進エリアは、土地区画整理事業の実施により、土地利用が可能となったことを指標とする。	・旧暫定逆線引き地区の北中、上山口、牛沼地区について、令和3年4月1日付けで用途地域の指定を廃止した。 ・市街化区域編入を目指す旧暫定逆線引き地区の下安松東地区及び土地利用推進エリアの三ヶ島工業団地周辺地区について、土地区画整理事業の実施に向けて関係機関と協議を行った。 ・土地利用推進エリアの関越自動車道所沢IC周辺地区について、発起人会により区域検討パートナーを選定した。	・三ヶ島工業団地周辺地区と下安松東地区の2地区については、当初一地区ずつ、都市計画決定する予定で進めていたが、2地区を同時に都市計画決定するように埼玉県と調整をした。 ・関越自動車道所沢IC周辺地区について、収支の視点を踏まえ、実現可能な計画を立案するため、民間活力を活用した手法を取り入れた。			
		根拠法令	都市計画法、土地区画整理法													R3予算現額	R3決算額(見込み)	②上記説明会等への参加者数	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み	どのよう貢献したか	土地区画整理事業の実施とあわせて、地区計画制度等の活用によって安全で安心な街づくりを進める。	
		土地利用転換推進事業	事業の具体的な内容及び目的													R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R3目標	R3実績	土地利用転換は、都市計画、農地、環境等の関連分野について、関係機関等の協議を継続的に進める中、長期的な取り組みが必要である。各年度の活動は、その時点で必要な協議を着実に進めることが中心となる。	都市計画変更及び土地区画整理事業認可等の手続を滞りなく進めるため、県をはじめとする関係機関との協議を行うとともに、地権者及び近隣住民へ丁寧に説明し理解を求めた。			
		期間	H29～R20													R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	①38回 ②460人	R4目標	R4実績		評価者			
																66,154千円	0人		0地区			市街地整備課長 鎌田 実幸			
612	都市計画課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	11. 住み続けられるまちづくりを													
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加													1,765千円	1,290千円	①景観市民活動クラブの登録団体数 ②とことこ景観資源の指定件数 ③とことこガーデンの指定件数	(令和元年度より) とことこ景観資源の指定件数	景観資源の登録数を増やすことで、市民に周知できる良好な景観資源が増加するため、間接的に景観に係る興味や満足度をあげることに繋がる。	景観市民活動クラブ登録団体数、とことこガーデン指定件数は、いずれも横ばいとなっており、引き続き景観施策の効果を検証する必要がある。 とことこ景観資源指定数については、すでに申請されていた景観資源候補所有者の同意が順調に得られたこと、指定同意を前提とした景観資源登録申請が複数あったことから増加に繋がった。	令和2年度に了承された景観計画見直しにおける方向性の具体的な検討に入った。	どのよう貢献したか	景観施策を推進することで、市民が住み続けたいと思える街並み形成や居心地の良さに寄与した。	
		根拠法令	所沢市ひと・まち・みどりの景観条例、景観法													R3予算現額	R3決算額(見込み)	実績	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み			
		景観まちづくり推進事業	事業の具体的な内容及び目的													R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	①9 ②227 ③135	R3目標	R3実績	目標達成済	引き続き他市の取り組みを研究するとともに、今後も景観審議会で議論の場を設け、施策体系を見直していく。			
		期間	H23～													R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合		R4目標	R4実績		評価者			
																11,810千円	0.3人		230			都市計画課長 高野 淳			

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
				会計	投入コスト		活動実績(R3)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
621	市街地整備課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	所沢東町地区市街地再開発事業については、平成31年1月から施設建築物建築工事に着手し、令和4年1月に竣工した。また、令和3年度から公共施設整備(道路)工事に着手し、再開発組合施工部分について令和4年度内の工事完了を目指している。	R3年度に改善した点	8. 働きがいも経済成長も	
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	734,979千円	734,940千円	①東町再開発施設建築物の建築工事及び工事監理に対する補助金等を交付し、再開発組合に助言・支援等を行う。	再開発事業の進捗状況	施設建築物建築工事及び公共施設(道路)整備工事の進捗状況を指標とする。				特になし。	11. 住み続けられるまちづくりを	
		根拠法令	都市計画法、土地区画整理法、都市再開発法、所沢市街づくり条例等	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②骨格道路…権利者交渉	再開発事業の進捗状況	施設建築物建築工事及び公共施設(道路)整備工事の進捗状況を指標とする。				事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
		事業の具体的な内容及び目的		R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析			現在行われている公共施設整備(道路)工事は、令和3年度より施工中の上下水道管布設替工事や、令和4年度より着工するファルマン通り交差点改良及び交差点周辺の無電柱化整備工事等と施工範囲が重複することから、関係機関・部署と十分な協議や調整を行いながら着実に事業を進めていく。	どのように貢献したか	
		期間	H17~	1.41人	0人	①東町再開発 R4.1月 施設建築物建築工事完了	施設建築物29階躯体建ち上がりまで完成	施設建築物29階躯体建ち上がりまで完成	目標達成済			所沢東町地区市街地再開発事業の施行に伴い整備する都市計画道路の歩道状空間を活用し、歩行者の回遊性や賑わいの創出を図る。		
				11,517千円		②骨格道路 土地評価業務委託 権利者交渉	施設建築物建築工事が完了	施設建築物建築工事が完了						
621	市街地整備課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	令和3年度の目標である事業対象用地1件の取得について、所沢市土地開発公社と権利者との間で用地取得契約が締結された。また、令和4年度から交差点改良工事を行うために必要な、交差点詳細設計を行った。	R3年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を	
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	119,397千円	118,666千円	①用地取得	ファルマン通り交差点改良整備に向けた進捗状況	ファルマン通り交差点改良整備までに必要となる各段階の手続きや事業の進捗状況を指標とする。				特になし。	11. 住み続けられるまちづくりを	
		根拠法令	都市計画法、道路法、所沢市街づくり条例等	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②交差点改良整備に必要な設計	再開発事業の進捗状況	施設建築物建築工事及び公共施設(道路)整備工事の進捗状況を指標とする。				事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
		事業の具体的な内容及び目的		R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析			ファルマン通り交差点改良工事の施工範囲について、現在組合により行われている所沢東町地区市街地再開発事業区域内の公共施設整備(道路)工事及び、令和3年度より施工中の上下水道管布設替工事、交差点周辺の無電柱化整備工事等と施工範囲が重複することから、関係機関・部署と十分な協議や調整を行いながら着実に事業を進めていく。	どのように貢献したか	
		期間	H26~R5	0.91人	0人	①所沢市土地開発公社による事業対象用地1件の取得	用地取得(公社対応1件・公社買戻2件)	用地取得(公社対応0件・公社買戻2件)	目標達成済			ファルマン通り交差点の改良により交差点の安全性が向上し、交通事故の発生が減少するとともに、交通渋滞が緩和される。		
				7,433千円		②交差点詳細設計の実施	用地取得(公社対応1件)	用地取得(公社対応1件)						
621	市街地整備課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	令和3年度は目標どおり2回開催し、所沢駅周辺まちづくりの重点事業について関係機関や団体、地元自治会町内会と情報共有や意見交換を行うことが出来た。令和4年度も引き続き、事業の進捗状況に合わせて開催する。	R3年度に改善した点	8. 働きがいも経済成長も	
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	6千円	4千円	①所沢駅周辺まちづくり連絡協議会の開催	所沢駅周辺まちづくり連絡協議会の開催状況	所沢駅周辺まちづくりに係る重点事業の進捗状況や歩行者ネットワークの形成等について、協議会を開催し、協議・調整を行うものことから、協議会の開催回数を指標とする。				特になし。	11. 住み続けられるまちづくりを	
		根拠法令	-	R3予算現額	R3決算額(見込み)	①所沢駅周辺まちづくり連絡協議会の開催(2回)	所沢駅周辺まちづくり連絡協議会の開催	所沢駅周辺まちづくりに係る重点事業に対して、事業化に向けた事前協議・調整を行うとともに、既に事業化されている事業に対する進捗状況の共有化を図るものである。				事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
		事業の具体的な内容及び目的		R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析			今後本格化する歩行者ネットワーク形成や駅前広場整備について、市で検討し、連絡協議会において意見を求める。また、街づくりの進捗状況を共有し、商業部会も含めて連携関係を図る。	どのように貢献したか	
		期間	H21~	0.04人	0人	①所沢駅周辺まちづくり連絡協議会の開催(2回)	2回開催	1回開催	目標達成済			事業及び所沢駅西北街区市街地再開発事業、所沢東町地区市街地再開発事業の施行において、商業・業務施設の整備や歩行者ネットワークの形成の検討を行うことにより、雇用創出や経済の活性化、地方の文化振興・産品販促につながる。		
				327千円		②所沢駅周辺まちづくり連絡協議会の開催(2回)	2回開催	2回開催						
621	所沢駅西口区画整理事務所	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	市街地再開発事業の施設工事は完了したが、既存建物解体工事ができなかったため、事業完了に至らなかった。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	1,533,061千円	1,465,185千円	①委託件数	市街地再開発事業の総事業費に対する事業実績	市街地再開発事業や所沢駅周辺の回遊性の確保等が目標であるが、事業完了までには時間を要することから、市街地再開発事業の総事業費に対する事業費実績を成果指標とした。				定期的に関係者間協議を実施したことで事業に対する理解度を高められた。		
		根拠法令	都市計画法、都市再開発法、所沢市街づくり条例	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②所沢駅西口まちづくり連絡協議会開催数	市街地再開発事業の総事業費に対する事業実績	市街地再開発事業の総事業費に対する事業費実績を成果指標とした。				事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
		事業の具体的な内容及び目的		R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	③関係者協議数(デッキ関係)	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析			引き続き事業のスケジュールを調整するとともに、国費要望等を行っていく。	どのように貢献したか	
		期間	H13~	3.15人	0人	①3件(うち1件繰越分)	100.0%	96.8%	目標達成済			所沢駅周辺の計画的な土地利用の推進と居住環境の改善を図る。		
				25,729千円		②2回	100.0%	98.8%						

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
				会計	投入コスト		活動実績(R3)		成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
621	所沢駅西口区画整理事務所	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	引き続き移転予定の権利者とは協議を進めており、道路新設工事等についても事業完了に向け順調に進んでいる。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	2,586,468千円	1,308,306千円	①工事件数	土地区画整理事業により市街地が整備された面積	土地区画整理事業の目的として、都市基盤整備、宅地整備によるぎわいの創出、良好な住宅市街地の整備を行うことから、土地区画整理事業全体の整備状況を成果指標とした。	R3目標値が未達成の理由・分析			定期的に行っている所属長を含めたグループリーダー会議にサブリーダーを加えたことで、より広い視点をもって課題の検討を行い、事業の進捗を適切に管理した。			
		根拠法令	都市計画法、土地区画整理法、所沢都市計画事業所沢駅西口土地区画整理事業施行に関する条例	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②住民説明会開催数									
		事業の具体的な内容及び目的	2,207,162千円	1,637,232千円	③街づくりだより発行数										
		所沢駅西口土地区画整理事業	事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み			
		期間	H28～H37	8.00人	0人	①8件(うち4件繰越分)	0.27ha	1.06ha	目標達成済			どのように貢献したか			
				65,344千円	0人	②7回	R3目標	R3実績				所沢駅ふれあい通り線の事業の遅れに伴い、土地区画整理事業の完了時期に影響を及ぼす可能性があることから、関係機関と事業完了に向けて協議を進める。			
		R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	③3回	R4目標	R4実績		事業地区内における公共用地の割合を、事業施行前の9.25%から35.86%まで整備する。							
		8.70人	0人		0.18ha			評価者							
		69,426千円	0人					所沢駅西口区画整理担当 工藤 順一							
621	所沢駅ふれあい通り線道路築造事業(1工区)	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	予定通りに用地取得が進んでおらず、工事に着手できていない。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	113,878千円	79,547千円	①委託件数	東村山第7号踏切(大踏切)の交通遮断によるピーク時の所沢駅東西移動に対する1時間あたりの支障時間(分)	所沢駅ふれあい通り線の整備により、東村山第7号踏切の遮断による所沢駅東西区間の移動の障害を無くすことを目標とするため、ピーク時の踏切遮断による移動に対する1時間あたりの支障時間を成果指標とした。	R3目標値が未達成の理由・分析			事業に対する住民の理解を得るため、住民説明会を開催した。			
		根拠法令	都市計画法、道路法	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②用地購入件数(土地開発公社)									
		事業の具体的な内容及び目的	66,060千円	64,940千円	③住民説明会開催数										
		所沢駅ふれあい通り線道路築造事業(1工区)	事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み			
		期間	R2～	2.05人	0人	①2件	開通後0分	53分	未開通のため。今後も継続的に用地取得と道路建設を進めていくことで、早期の供用開始、全線開通を目指す。			どのように貢献したか			
				16,744千円	0人	②4件	R3目標	R3実績				用地取得が難航している所があり、事業完了が遅れる見通しとなった。今後、早期の用地取得に向け、権利者交渉を進めていく。			
		R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	③1回	R4目標	R4実績		評価者							
		3.45人	0人		開通後0分			所沢駅西口区画整理担当 工藤 順一							
		27,531千円	0人												
622	狭山ヶ丘区画整理事務所	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	事業完了までの長期にわたる事業計画に基づき、事業を施行しているため。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	907,810千円	209,638千円	①土地区画整理事業の進捗状況	土地区画整理事業の進捗により、良好な住宅地が整備された面積	本事業の目的として、都市基盤整備、宅地整備による良好な住宅市街地の整備を行うことから、土地区画整理事業全体の整備状況(進捗状況)を目標値とした。	R3目標値が未達成の理由・分析			事業の進捗状況に合わせて、事業計画の変更を行った。			
		根拠法令	土地区画整理法、都市計画法、所沢都市計画事業狭山ヶ丘土地区画整理事業施行に関する条例	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②									
		事業の具体的な内容及び目的	916,203千円	206,120千円	③										
		狭山ヶ丘土地区画整理事業	事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み			
		期間	S62～R10	4.00人	0人	①仮換地指定率 96.4%	30ha	29ha	事業について理解が得られない地権者の仮換地が未指定であるため。			どのように貢献したか			
				32,672千円	0人	②	R3目標	R3実績				地権者との補償交渉を継続して行って状況であるが、今後は補償契約及び移転をお願いし、その後、下水道や道路等の工事を施工し、事業の進捗を図っていく。			
		R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	③	R4目標	R4実績		評価者							
		4.00人	0人		30ha			狭山ヶ丘区画整理担当 新井 信二							
		31,920千円	0人												

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)		
				会計	投入コスト	活動実績(R3)	活動実績(R3)	成果指標	総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)		
631	建設総務課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	国土調査完了地域において、座標値をもった道路境界確定図の整備を進められている。	R3年度に改善した点	9. 産業と技術革新の基盤を作る			
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	3,200千円	2,398千円	①単年度確定面積	国土調査完了区域における確定測量実施面積	国土調査完了地域において、座標値をもった道路境界確定図の整備を早期に進めるため、確定測量実施面積を指標とする。目標値は、当該年度に行うべき確定測量の対象面積。			コロナ禍による社会情勢の変化に配慮し、引き続き弾力的な境界確認作業を実施した。	11. 住み続けられるまちづくりを			
		根拠法令	道路法・道路法施行規則・所沢市公共測量作業規程	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②確定測量累計面積					3,402千円	2,653千円	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
		道水路座標管理図面作成事業	事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析							
		期間	S53～	【目的】座標値をもった復元可能な道路図面を整備することにより、生活道路の後退、拡幅、舗装工事、災害時の復元など、道路整備に反映させる。【内容】国土調査が完了した区域において、都市基準点をを用いた道路の境界点測量を実施し、座標値をもった道水路の確定図面を整備する。	0.65人	0人	0.10km ²	0.08km ²							
					R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	R3目標	R3実績			目標達成済				
			0.65人	0人	0.10km ²	0.10km ²									
			5,309千円		R4目標										
			5,187千円		0.10km ²										
631	建設総務課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	境界確認申請のうち98%以上の案件において、道水路境界を確定することができた。	R3年度に改善した点	9. 産業と技術革新の基盤を作る			
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	4,400千円	3,602千円	①申請件数	申請により境界が確定した件数	境界確認申請に基づいて道水路境界の確定を目指して関係地権者との立会いや調整を図り、境界を確定させることで適正な道水路境界確定図の整備が進められるため、境界が確定した件数とする。			現場での感染症対策に万全を期し、関係者が不安を感じないような境界確認作業を実施した。	11. 住み続けられるまちづくりを			
		根拠法令	道路法・道路法施行規則・所沢市道水路境界確認事務取扱要綱	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②境界確定件数					2,669千円	1,815千円	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
		道水路境界確定事業	事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析							
		期間	S35～	【目的】道水路境界を確定又は修正し、確定図を整備することにより、適正な道水路の維持管理を図るとともに、民有地の土地利用の促進を図る。【内容】関係地権者からの境界確認申請による調査・立会い。道水路境界の確認・同意、道水路境界線の設置、確定図の受理。	2.10人	0.4人	150件	156件			目標達成済				
					R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	R3目標	R3実績							
			17,153千円		150件	147件									
			2.10人	0.4人	R4目標										
			16,758千円		140件										
631	計画道路整備課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	本路線は所沢市の外環状道路であるため、全線開通により交通渋滞の緩和に大きく寄与する事業であることから重点的に整備を進めている。令和3年度は1工区の道路築造工事及び用地取得、4工区の道路設計等積極的に道路整備を行った。また、県が整備を進めている都市計画道路東京狭山線、都市計画道路飯能所沢線と接続する路線であり、2路線は東京都の都市計画道路と繋がる計画となっている。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを			
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	388,420千円	278,539千円	①用地取得率	交通渋滞緩和 市道3-5号線、及び主要地方道川越所沢線(美原町3-2944-2前)に観測点を設定。当該都市計画道路開通により交通量1割削減を達成する。	北野下富線(1工区)と松葉道北岩岡線の同時開通により交通渋滞の緩和を図るもので左記箇所を観測点を設定して、年1回・7月の第1水曜日(朝)午前7時30分～8時30分、(夕)午後5時30分～6時30分に測定する。			市と道路用地地権者、収用対象地提供者の3者契約により、1工区の用地取得率が84%から98%まで上げることができた。				
		根拠法令	道路法、都市計画法	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②工事着手率					757,970千円	598,888千円	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
		北野下富線道路築造事業	事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析							
		期間	H6年度～	平成4年度の都市交通施設整備計画において所沢市の外環状道路として位置付け、幹線道路の環状型ネットワークを形成し、市内道路の交通渋滞緩和を図るものである。国道463号バイパス小手指ヶ原交差点から一般県道所沢堀兼狭山線下富駿河台交差点までの延長5,500mの道路の整備を行うもので、早期の全線開通を目指す。	5.60人	0人	未開通のため。未整備区間の整備を推進するために、今後も継続的に用地取得と道路建設を進めていくことで、早期の供用開始、全線開通を目指すものである。測定日R3.7.7、川越所沢線 朝)川越方面392台、所沢方面304台、夕)川越方面330台、所沢方面333台、市道3-5号線 朝)狭山方面329台、所沢方面390台、夕)狭山方面264台、所沢方面365台	開通後1割削減			2,746台	目標達成済			
					R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	R3目標	R3実績							
			45,741千円		開通後1割削減	2,707台									
			5.20人	0人	R4目標										
			41,496千円		開通後1割削減										
631	計画道路整備課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	事業効果を高めるために、「所沢駅西口土地区画整理事業」及び「所沢駅ふれあい通り線道路築造事業(1工区)」の進捗を鑑みて、建設を進める。令和3年度は、測量及び道路詳細設計を実施し、着実に事業を進めた。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを			
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	0千円	0千円	①用地取得率	事業進捗率(累積事業費/総事業費)	本事業の完成には複数年度の期間を要することから、年度ごとに目標を定め計画的に整備を進めていく。(事業進捗率を事業費の割合により示す。)総事業費4,865,530千円			平成19年度からの懸案事項であった未確定の用地境界が確定し、併せて道路詳細設計を実施した。また、地権者の同意を得られたことにより、道路区域に合わせて道路幅員を20mに変更した。				
		根拠法令	道路法、都市計画法	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②工事着手率					10,450千円	9,900千円	事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み		
		所沢駅ふれあい通り線道路築造事業	事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析							
		期間	H19年度～	主要地方道東京所沢線から所沢駅東口中央通りくすのき台交差点までの延長780mの道路で、鉄道により分断されている所沢駅東地区を道路の立体交差により一体化させ、駅周辺の慢性的な交通渋滞の解消を図るものである。市道1-525号線(通称・大踏切通り)の西側は、街づくり計画部において都市基盤の整備を行い、市道1-525号線からくすのき台交差点までの区間を建設部において整備する。	0.90人	0人	-	-			目標達成済				
					R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	R3目標	R3実績			目標達成済				
			7,351千円		0.46%	0.45%									
			1.25人	0人	R4目標										
			9,975千円		0.46%										

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
				会計	投入コスト	活動実績(R3)	活動実績(R3)	成果指標	総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
633	道路建設課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	B	地権者から用地売却の理解が得られず、用地購入が出来なかったため、目標達成に至らなかった。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	12,200千円	11,525千円	①用地取得	新設道路の築造進捗率	新設道路の築造にあたり、大きく3段階に分け、それぞれ①設計15%→②用地購入45%(15%×3年)→③工事40%(20%×2年)を達成数値とする。			特になし。			
		根拠法令	道路法 土地収用法	R3予算現額	R3決算額(見込み)									42,603千円
		事業の目的及び具体的な内容	三ヶ島地区の交通の利便性の向上、地域の活性化及び安心・安全な歩行空間を確保するため、入間市との共同事業として整備するものであり、1工区については平成30年度に完了し、2工区については、土地区画整理事業の予定区域と重複しているため用地取得については、所管である街づくり計画部で取り組んでいる。3工区については、「林運動場」付近から入間市宮寺の県道所沢青梅線「南矢萩」バス停付近までのうち、所沢市分の約368mの区間を整備するものである。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	15.0%	15.0%			令和3年度に用地購入する予定であった地権者の1人と契約を結ぶことが出来ず、用地購入が出来なかった。			
		期間	R2~	1.00人	0人	8,168千円	R3目標	R3実績						30.0%
				R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	①880.83㎡	R4目標				45.0%			
634	道路維持課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	-	歩行者・自転車の通行の安全性を確保するため、道路状況に応じた自転車レーンの整備を行い、その整備延長をもって指標とする。	R3年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を	11. 住み続けられるまちづくりを	
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	14,482千円	13,464千円	①自転車レーン設置工事	自転車レーン整備の実施延長(m)	安全で快適な自転車走行空間を効果的、効率的に整備するために、自転車ネットワーク計画策定の準備を進めた。						
		根拠法令	道路法、道路構造令、道路交通法、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例	R3予算現額	R3決算額(見込み)						0千円			0千円
		事業の目的及び具体的な内容	歩道内における歩行者と自転車の接触事故の軽減を目的として歩行者と自転車を分離することにより、安全性を確保する自転車通行レーンを整備する。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	5,907m	5,525m			限られた予算の中で検討した結果、他の事業を優先したため、自転車レーン整備事業は実施できなかった。			
		期間	H30~	0.95人	0人	7,760千円	R3目標	R3実績						7,494m
				R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	①0m	R4目標				9,334m			
635	建設総務課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	市管理の道路照明灯の修繕について、迅速な修繕により適正な維持管理をすることができた。道路照明灯LED化整備事業によるリース物件の道路照明灯の維持管理については、リース事業者と連携し効率的な管理が行われた。	R3年度に改善した点	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	11. 住み続けられるまちづくりを	
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	137,702千円	132,314千円	①必要な修繕数 ②修繕実施数 ③電気料支払い灯数	修繕完了灯数	目標値: 想定される修繕灯数 実績: 修繕実施灯数						
		根拠法令	所沢市照明灯設置基準	R3予算現額	R3決算額(見込み)						139,111千円			134,799千円
		事業の目的及び具体的な内容	【目的】歩行者、自転車及び車両の夜間交通の安全確保及び円滑かつ快適な利用を図る。 【内容】道路照明灯の新設・維持管理を行う。また、リース対象の8,602灯についてはリース料を支払う。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	150件	89件			目標達成済 (目標値は想定される修繕数であり、実施の修繕灯は目標値を下回っているが、修繕自体が少ないことが良いとの判断から達成済みとした。)			
		期間	S53~	0.70人	0人	5,718千円	R3目標	R3実績						100件
				R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	①73件 ②73件 ③10,894灯	R4目標				100件			
635	建設総務課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	防犯灯補助金については、各自治会等からのLED化の要望が多く、すべての要望に応えることはできなかったが、防犯灯LED化整備事業と合わせて、LED化の促進を図ることで、ほとんどの防犯灯をLED灯にすることができ、安全なまちづくりに資することができた。	R3年度に改善した点	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	11. 住み続けられるまちづくりを	
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	44,290千円	43,701千円	①新設費補助金 補助額 補助灯数 ②維持管理費補助金補助額 補助灯数 ③リース防犯灯数	目標値: 予算額 実績: 補助金交付額							
		根拠法令	所沢市防犯灯補助要綱	R3予算現額	R3決算額(見込み)			44,290千円			43,885千円			R2目標
		事業の目的及び具体的な内容	【目的】夜間における道路上での犯罪被害の防止。 【内容】自治会等が設置、維持管理する防犯灯に対し新設費(交換を含む)及び維持管理費の一部を助成することにより防犯灯の設置が促され、防犯効果の増大が図られるとともに、安全な都市空間を実現することになる。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	24,006千円	23,417千円			目標達成済			
		期間	S53~	0.75人	0人	6,126千円	R3目標	R3実績						24,006千円
				R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	①補助額 2,904,000円 補助灯数 114灯 ②補助額 20,697,300円 補助灯数 13,481灯 ③ 7,068灯	R4目標				24,077千円			

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)		
				会計	投入コスト		活動実績(R3)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
635	道路維持課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		C	大径木化し、樹形が乱れたケヤキなどの街路樹について、今後、樹形を整え、樹冠拡大を行っていき、木陰を創出し、街並みと調和のとれた街路樹の整備を行っていく。また、樹木診断を実施し、倒木の可能性がある街路樹については伐採等を行い、事故防止に努めている。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	15. 陸の豊かさも守ろう	
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	106,000千円	105,998千円	①高・中・低木剪定数	街路樹剪定・除草実施延長(km)	道路の景観や道路交通の安全確保を目的とするため街路樹の剪定や除草実施延長を指標とする。	R3目標値が未達成の理由・分析			前年度に引き続き、職員による除草などの現場作業を増やすことで、業者に発注せずに経費削減に努めた。			
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②除草	R2目標						R2実績			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
		道路法、道路構造令、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例	108,000千円	107,962千円	③樹木診断	58km						34km			大径木化や樹勢の衰えた街路樹などについては、今後、街路樹の更新計画を立て、街並みと調和のとれた街路樹の整備を行っていく。
		事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R3目標	R3実績	どのよう貢献したか	都市景観の形成や防災の機能を保ち、人のためのみち(空間)スポットオアシスを創出した。						
		幹線道路等の樹木剪定や植樹帯の除草を定期的に行い、街路樹の目的や機能を十分発揮させることにより、道路環境の整備はもとより良好な都市景観の形成と快適な生活空間を創出する。	2.95人	0人	①3,623本	58km	34km								
			24,096千円	0人	②63,293㎡	R4目標									
R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合		③100本	58km											
期間	S49～	2.80人	0人	22,344千円						評価者	道路維持課長 相沢 渉				
635	道路維持課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	市民からの通報や道路/パトロールにより、道路の危険状況を把握し、迅速に修繕や補修を行うことにより、事故を未然に防ぎ、歩行者や車両が道路を安心・安全に利用できるように努めている。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	684,017千円	683,598千円	①要望・通報件数	要望・通報に対する処理割合(%)	老朽化した道路や機能が低下した道路施設の修繕や補修を行うことが目的のため、要望・通報件数に対して処理した件数の割合を指標とする。	R3目標値が未達成の理由・分析			要望箇所(606号橋・609号橋)について点検を実施している。また、健全度がⅢ判定(早期に措置を講ずべき状態)であった松戸橋の修繕工事を実施した。			
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②道路補修改修工事	R2目標						R2実績			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
		道路法、道路構造令、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例	665,000千円	664,889千円	③道路清掃	100.0%						98.0%			道路の老朽化による振動や豪雨による雨水対策など、市民からの道路に対する要望は、今後も増え、対応件数は増加傾向にあるため、修繕や工事の優先順位を定めて、計画的に実施していく必要がある。
		事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R3目標	R3実績	どのよう貢献したか	道路の保全と通行の安全確保を行った。						
		老朽化が進行した道路や、機能が低下した道路施設を計画的に修繕し、道路利用者の安全を確保するとともに、沿道の生活環境の改善を目指す。	11.75人	0人	①2,732件	100.0%	98.0%								
			95,974千円	0人	②10路線 1,234.4m	R4目標									
R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合		③路面清掃 12路線 26.6km 樹清掃 119箇所 U字溝清掃 200m	100.0%											
期間	S25～	6.10人	0人	48,678千円						評価者	道路維持課長 相沢 渉				
635	道路維持課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	道路法で定められている法定定期点検の二巡目を引き続き実施する。また、「所沢市橋梁長寿命化修繕計画」の改定を実施し、それに基づき、予防保全の観点から計画的な点検、診断、修繕を実施することで、引続きライフサイクルコストの削減を図っていく。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを		
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	59,010千円	57,964千円	①橋りょう修繕	修繕した橋りょう数(橋)	橋りょうの安全確保を目的とするため、点検により補修等が必要な橋りょうの修繕工事を指標とする。	R3目標値が未達成の理由・分析			橋りょうの安全確保を目的とするため、点検により補修等が必要な橋りょうの修繕工事を指標とする。			
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②橋りょう定期点検	R2目標						R2実績			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
		道路法、道路構造令、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例	34,802千円	30,507千円	③管理者協議(河川・鉄道等)	1橋						1橋			道路の保全と通行の安全確保を行った。
		事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R3目標	R3実績	どのよう貢献したか	道路の保全と通行の安全確保を行った。						
		建設から長い年月が経過した橋りょうの老朽化に対し、定期的な点検を実施し、その結果から補修を行うとともに耐震性の向上を図ることで更なる安全性を確保する。所沢市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、修繕を計画的に進めることで橋りょうを延命化し、維持管理費用の削減を図る。	2.85人	0人	① 1橋	1橋	1橋								
			23,279千円	0人	② 2橋	R4目標									
R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合		③ 3回	1橋											
期間	H25～	1.60人	0人	12,768千円						評価者	道路維持課長 相沢 渉				
635	道路維持課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		-	緑陰確保に向けたケヤキの樹冠拡大剪定の街路樹管理目標シートを作成し、見本剪定を委託業者に対して行った。今後は、ケヤキなどの樹冠拡大剪定を行っていくとともに、市道5-1016号線(さくら通り)の道路改良工事を行っていく。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	15. 陸の豊かさも守ろう	
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	0千円	0千円	①樹冠拡大本数	道路改良工事の実施延長(m)(R4～)	※事業開始年度のR3年度については、道路改良工事に向けて、市道5-1016号線の詳細設計の業務委託を行った。	R3目標値が未達成の理由・分析			街路樹の樹冠拡大、街並みと調和のとれた街路樹の整備、歩きやすい歩道空間の整備を目的とするため、道路改良工事の実施延長を指標とする。			
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	②道路改良工事	R2目標						R2実績			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
		道路法、道路構造令、所沢市道路の構造の技術的基準等を定める条例、所沢市移動円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例	18,500千円	12,888千円		0千円						0人			どのよう貢献したか
		事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	R3目標	R3実績	どのよう貢献したか	R4年度の改良工事に向けて、地元住民への工事の説明を行っていき、合意形成を図っていく。						
		街路樹の樹形を整え、木陰を創出するなど、緑陰の確保に努め、街並みと調和した街路樹を充実させ、歩きやすい歩道空間の整備を行い、「人を中心としたまちづくり」歩いて過ごせるまちの実現を目指す。	0.00人	0人	①0本	-	-								
			0千円	0人	②0m	R4目標									
R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合			250m											
期間	R3～	0.30人	0人	2,394千円						評価者	道路維持課長 相沢 渉				

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)					
				会計	投入コスト		活動実績(R3)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)				
641	都市計画課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	成果指標の目標値を毎年ほぼ達成しており、バリアフリーの促進について一定の成果があげられていると考えている。今後については、継続事業及び未完了の項目について各事業者等に働きかけ、誰もが移動しやすいまちづくりの促進に努めたい。	R3年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を						
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	266,667千円	266,667千円	R2実績	R2実績	R3目標			R3実績							
		交通バリアフリー推進事業	根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	①特定事業のうち、継続中又は実施済の事業数 ②ノンステップバス導入率	継続中又は実施済の特定事業数の割合	「所沢市交通バリアフリー基本構想」に基づく特定事業の総数(154事業)に対する、継続中又は実施済の特定事業数の合計を成果指標としている。			R3目標			R3実績				
			高年齢者、障害者等の移動等の円滑化に関する法律	2,666千円	2,150千円													
			事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合										R2目標	R2実績		
		期間	H16～	高年齢者や障害者をはじめとした全ての人が、公共交通機関などを利用した移動にあたって、利便性及び安全性向上を促進させるため、平成16年3月に「所沢市交通バリアフリー基本構想」を策定した。これに基づき、特定事業の進捗状況を管理し、市のHPで情報提供を行うことにより、誰もが移動しやすいまちづくりの促進を目指す。	0.24人	0人	R3目標	R3実績			平成16年からの事業継続により、ほとんどの項目で事業が実施されているが、施設管理者、周辺地権者及び道路状況等により、実施困難な場所が見られる。			100%	97.0%	R3目標	R3実績	11. 住み続けられるまちづくりを
					1,960千円	0人	R3目標	R3実績						100%	97.0%	R3目標	R3実績	
			0.27人	0人	R4目標					R4目標								
			2,155千円	0人	R4目標				100%									
641	都市計画課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	目標を下回っているが、前年度実績よりも増加したとともに、運行本数や運行距離といった利便性の面での課題を解決することができた。	R3年度に改善した点	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 11. 住み続けられるまちづくりを						
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	173,199千円	169,288千円	R2実績	R2実績	R3目標			R3実績							
		市内循環バス(ころバス)運行事業	根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	①年間総利用者数 ②年間運行便数 ③特別乗車証及び運転免許証返納に伴う無料乗車券の利用者数	年間総利用者数	バス運行事業の目的の通り、公共施設利用者、交通不便地域の住民や、高齢者・障害者など、多くの方に利用されているかを計るため、年間総利用者数を成果指標としている。			R3目標			R3実績				
			-	181,996千円	174,468千円													
			事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合										R2目標	R2実績		
		期間	H10～	市民の公共施設利用の利便性向上、市内の交通不便地域の解消、及び高齢者・障害者をはじめとする交通弱者対策を図ることを目的とし、市内の4路線6コースにおいて、1日計54便のバスを運行している。	1.45人	0人	R3目標	R3実績			388,000人			280,193人	R3目標	R3実績		
					11,844千円	0人	R3目標	R3実績			320,000人			313,376人	R3目標	R3実績		
			1.09人	0.5人	R4目標		330,000人			R4目標								
			8,698千円	0.5人	R4目標					R4目標								
642	都市計画課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	B	引き続き、協議会と連携を図り、課題解決に向けた取り組みを行っている。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを						
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	36千円	30千円	R2実績	R2実績	R3目標			R3実績							
		都市高速鉄道12号線導入促進事業	根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	①会議開催 ②要望活動	延伸距離(光が丘駅～東所沢駅)	光が丘駅から東所沢駅までの延伸距離			R3目標			R3実績				
			-	6千円	0千円													
			事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合										R2目標	R2実績		
		期間	H5～	東武東上線と西武池袋線に挟まれた鉄道不便地域の解消を目的として、練馬区、新座市、清瀬市、所沢市で構成する「都市高速鉄道12号線延伸促進協議会(以下「協議会」という)」を開催し、また延伸促進の早期実現に向け、東京都及び埼玉県へ要望活動を実施する。	0.20人	0人	R3目標	R3実績			12.7km			0km	R3目標	R3実績		
					1,634千円	0人	R3目標	R3実績			12.7km			0km	R3目標	R3実績		
			0.13人	0人	R4目標		12.7km			R4目標								
			1,037千円	0人	R4目標		12.7km			R4目標								
643	防犯交通安全課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	B	実施可能な整備は行っているが、鉄道事業者との基本協定が締結できていないため、次年度も引き続き協議を行っていく。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを						
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	86,075千円	63,638千円	R2実績	R2実績	R3目標			R3実績							
		西所沢駅西口改札口開設事業	根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	①事業に係る整備面積 ②鉄道事業者交渉回数	事業に係る整備面積	西所沢駅西口開設の早期実現に向け、今後、各整備項目についての整備が必要となることから、対象となる工事等の面積を成果指標としている。			R3目標			R3実績				
			-	4,127千円	3,575千円													
			事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合										R2目標	R2実績		
		期間	H17～	地元自治会等からの請願が提出され、市議会にて採択されたことを受け、西所沢駅利用者の利便性向上及び安全性確保を目的として取り組んでいる。令和元年度は、東西自由通路等を整備する方向で鉄道事業者と基本協定を締結する予定だったが、当初の想定よりも整備費及び期間が増大する見込みとなったことから、西口改札口を開設する方向に変更となった。現在、改めて基本協定の早期締結に向け、鉄道事業者との協議を継続している。	1.80人	0人	R3目標	R3実績			551.10㎡			551.10㎡	R3目標	R3実績		
					14,702千円	0人	R3目標	R3実績			551.10㎡			551.10㎡	R3目標	R3実績		
			1.41人	1	R4目標		551.10㎡			R4目標								
			11,252千円	1	R4目標		551.10㎡			R4目標								

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費		成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)				
				会計	投入コスト	活動実績(R3)	成果指標	総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)					
651	経営課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	②未利用地利活用売却益については、競争入札(3者)により最低入札価格の498万円を上回る売却益が得られた。 ③旧水道庁舎用地利活用貸付料及び④検針票広告収益は、前年度から継続して収入を得ることができ、健全な経営に寄与した。 一方、水道事業資金の減少により新たな運用を見送ったため①債券運用益は増加せず、⑤定期預金運用益は得られなかった。今後もこの傾向が続くと見込まれる。	R3年度に改善した点	16. 平和と公正をすべての人に					
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加								R3予算現額			R3決算額(見込み)	①債券運用益 ②未利用地利活用売却益 ③旧水道庁舎用地利活用貸付料 ④検針票広告収益 ⑤定期預金運用益	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		根拠法令	地方公営企業法、地方公共団体の健全化に関する法律 地方自治法第239条の4、地方公営企業法施行令第168条の6 所沢市上下水道局印刷物広告の掲載に関する要綱								1,480千円			579千円	①債券運用益 ②未利用地利活用売却益 ③旧水道庁舎用地利活用貸付料 ④検針票広告収益 ⑤定期預金運用益	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		事業の具体的な内容及び目的	水道事業の資産を有効活用し、自主財源の確保により経営の活性化を図り、企業経営の健全化に努めるものである。 ①長期的債券の購入・運用 ②未利用地の売却・貸付け ③旧水道庁舎用地の貸付け ④検針票を活用した企業等の広告掲載 ⑤一般・特別会計に係る基金との共同運用(定期預金)								1,339千円			266千円	①債券運用益 ②未利用地利活用売却益 ③旧水道庁舎用地利活用貸付料 ④検針票広告収益 ⑤定期預金運用益	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		期間	H29～								R2正規職員人件費			R2その他職員従事割合	実績	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
											0.50人			0人	11,270千円	12,700千円	R3年度に改善した点
651	窓口サービス課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	口座振替率の実績からは、一定の成果が継続して得られていると考えられるが、目標値には未達成であった。今後も収納費用の削減に向けて事業に取り組んでいく。	R3年度に改善した点	12. つくる責任 つかう責任	16. 平和と公正をすべての人に				
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加								R3予算現額			R3決算額(見込み)	①納入通知書戸数 ②口座振替登録戸数	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		根拠法令	地方公営企業法・水道法・所沢市水道事業給水条例								504千円			309千円	①納入通知書戸数 ②口座振替登録戸数	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		事業の目的及び具体的な内容	収納に伴う費用が安価である口座振替への加入を促進し、中長期的に費用の削減を図ることを目的とする。 ①個別通知(申込用紙、返信用封筒同封)の郵送 ②口座振替登録者を対象とした景品抽選の実施(マンホールグッズ) ③検針票通欄欄を活用した普及活動								420千円			409千円	①納入通知書戸数 ②口座振替登録戸数	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		期間	H29～								R2正規職員人件費			R2その他職員従事割合	実績	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
											0.10人			0.1人	74.00%	72.57%	R3年度に改善した点
652	上下水道局総務課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	令和3年度は、2年ぶりに出前教室を実施することができた。出前教室を受けた児童に対して行ったアンケート(回答数1,055人、回収率86.3%)では、97.0%の児童が出前教室は「とても楽しかった」「まあまあ楽しかった」と回答し、97.7%の児童が出前教室の内容が「よく分かった」「まあまあ分かった」と回答した。また、講師や補助の職員は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら出前教室を実施した。	R3年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	10. 人や国の不平等をなくそう				
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加								R3予算現額			R3決算額(見込み)	①実施校数(市内小学校数) ②児童の満足度・理解度	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		根拠法令	-								30千円			0千円	①実施校数(市内小学校数) ②児童の満足度・理解度	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		事業の具体的な内容及び目的	水道及び下水道の理解を深めるとともに、生活に欠かすことのできない水が限りある資源であることや形を変えながら陸・海・空を循環していること(水の循環)などを知ることにより、水の大切さに気づき、さらには地球の環境保全に対する意識を高めることを目的とし、市内の小学校に上下水道局職員を派遣し、啓発用パンフレット「所沢の水道と下水道」等を使用して、水道及び下水道についての出前教室を行う。								49千円			23千円	①実施校数(市内小学校数) ②児童の満足度・理解度	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		期間	H28～								R2正規職員人件費			R2その他職員従事割合	実績	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
											0.22人			0人	18校以上	0校	R3年度に改善した点
652	給水管理課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	渇水時や災害時などの水源としても活用できるよう、取水井の清掃及び機能診断を行い、適正揚水量で運用することができた。	R3年度に改善した点	6. 安全な水とトイレを世界中に	13. 気候変動に具体的な対策を				
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加								R3予算現額			R3決算額(見込み)	①取水井の保全	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		根拠法令	水道法								11,550千円			11,550千円	①取水井の保全	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		事業の具体的な内容及び目的	取水井(35箇所)の清掃及び機能診断を毎年2か所実施する。取水井の機能維持及び水質保全のため揚水量10,000m ³ /日で運用する。								11,374千円			11,220千円	①取水井の保全	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
		期間	H5～								R2正規職員人件費			R2その他職員従事割合	実績	目標設定の考え方・根拠	R3年度に改善した点
											1.10人			0人	350万m ³	428万m ³	R3年度に改善した点

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
				会計	投入コスト		活動実績(R3)		成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
652	経営課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	「読んで得する・知って得する」をコンセプトに令和元年度に発行した広報紙は、わかりやすく上下水道事業を知っていただく契機となった。市のイメージマスコットである「トロろん」と上下水道局イメージマスコットである「所沢しずく」の4コマ漫画の連載により、親しみやすい紙面とすることができた。また、多くの利用者から、反響を頂き、積極的な広報活動に理解を得ることができた。	R3年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう		
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	4,511千円	3,314千円	①発行回数	広報紙の発行回数	R2目標	R2実績			R3目標値が未達成の理由・分析			R3年度に改善した点
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	4,333千円				4,122千円						R2実績
		イメージアップ事業(ところざわ水物語発行)【水道】	事業の目的及び具体的な内容	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	2回	R2実績	R2実績			R3目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
		期間	上下水道事業の経営状況や施策事業の取組等に関する幅広い情報について、積極的な広報活動を行うことにより、利用者の理解と協力が得られるように「事業の見える化」に努め、公営企業として経営健全化等を図るものである。	0.50人	0人				R3目標						2回
		R1~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	4,084千円	0人	①2回	R3実績	2回			目標達成済			どのように貢献したか
	4,628千円	0人	0.58人	0人	R4目標	2回		評価者	年2回発行し、水道水の安全性について紹介した。						
			4,628千円	0人		2回		経営課長 草薨 秀夫							
653	水道建設課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	令和3年度は6件の更新工事が令和4年度へ繰越したため、決算距離が目標距離に対し90%を下回っているが、繰り越した6件のうち4件は令和4年6月までに完成し、2件についても工期内に完成の見込みであり事業は進捗している。	R3年度に改善した点	6. 安全な水とトイレを世界中に 9. 産業と技術革新の基盤を作ろう 11. 住み続けられるまちづくりを		
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	4,118,500千円	3,255,576千円	①小口径管・大口径管の更新延長	小口径管・大口径管を更新する延長	R2目標	R2実績			R3目標値が未達成の理由・分析			R3年度は市内の耐震化率を考慮し、全体的にバランスの取れた更新工事を計画した。
		水道管整備事業	水道法、所沢市水道事業給水条例、所沢市水道ビジョン、所沢市水道事業経営計画	R3予算現額	R3決算額(見込み)				3,250,308千円						1,642,523千円
		事業の目的及び具体的な内容	(目的)市内全域に安定的に水を供給するとともに災害に強い施設とするため、老朽管の更新を実施している。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	18,000m	R2実績	R2実績			R3目標値が未達成の理由・分析			事業達成に向けての現在の課題及び今後の課題解決に向けた取り組み
		期間	(内容)老朽化が進んでいる水道管について、耐震性能が高いダクタイル鋳鉄管に更新すること及び配水本管の未整備路線について、耐震性能が高いダクタイル鋳鉄管を新たに布設する。	17.00人	0人				①7,505.6m						②1,321.1m
		H23~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	138,856千円	0人	①7,505.6m	②1,321.1m	R4目標			9,800m			9,800m
	127,680千円	0人	16.00人	0人				水道建設課長 古澤 祐晴	水道水の安全で安定した供給を行った。						
653	給水管理課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	安全な水の安定供給と災害に強いライフラインを構築するため、更新予定の1池を除いて全て完了したことで、配水池等の耐震化については現時点で実行可能な目標を達成した。	R3年度に改善した点	6. 安全な水とトイレを世界中に 9. 産業と技術革新の基盤を作ろう 11. 住み続けられるまちづくりを		
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	495,344千円	291,170千円	①耐震補強工事(第一浄水場浄水池) ②耐震補強工事(西部浄水場配水池2号) ③東部浄水場着水井耐震診断業務委託	【R3まで】配水池の耐震化率(耐震対策の施された配水池の有効容量÷対象配水池等の有効容量)×100 【R4~】着水井の耐震化率(耐震対策の施された着水井等の有効容量÷対象着水井等の有効容量)×100	R2目標	R2実績			R3目標値が未達成の理由・分析			西部浄水場耐震補強工事では、周辺環境に配慮した工法を採用した。
		浄水場整備事業(耐震補強事業)	水道法、水道施設の技術的基準を定める省令、所沢市水道ビジョン、所沢市水道事業経営計画	R3予算現額	R3決算額(見込み)				393,212千円						257,165千円
		事業の目的及び具体的な内容及び目的	配水池等(13池・総有効水量92,000m³)の耐震診断を順次行い、その結果に基づき耐震補強設計及び耐震補強工事を実施し、耐震化する。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	93.5%	R2実績	R2実績			R3目標値が未達成の理由・分析			耐震対策の施されていない西部浄水場1号池については、今後の更新計画の中で対応していく。
		期間	着水井等(5か所・総容量3,140m³)の耐震診断を順次行い、その結果に基づき耐震補強設計及び耐震補強工事を実施し、耐震化する。	1.45人	0人				①1池						②1池
		H21~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	11,844千円	0人	①1池	②1池	R4目標			47.8%			
	11,571千円	0人	1.45人	0人	③1池			給水管理課長 村田 孝之	災害時の安定給水に寄与している						
653	給水管理課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	適正な運用環境の確保等から使用期間20年を目安とした監視制御装置の更新として、東部浄水場については基本計画を作成し、予防保全型維持管理を実現している。	R3年度に改善した点	6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9. 産業と技術革新の基盤を作ろう 11. 住み続けられるまちづくりを 13. 気候変動に具体的な対策を		
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	0千円	0千円	①更新機器の据付(東部浄水場監視制御装置) ②西部浄水場配水ポンプ更新 ③電気設備更新工事基本設計(第一浄水場)	設備の更新を実施する施設数	R2目標	R2実績			R3目標値が未達成の理由・分析			受注者の工場内で行う機器の製作期間にあたる工期を、ゼロ債務を利用して有効に活用した。
		浄水場施設・設備更新事業	水道法、水道施設の技術的基準を定める省令、所沢市水道ビジョン、所沢市水道事業経営計画	R3予算現額	R3決算額(見込み)				939,279千円						629,090千円
		事業の目的及び具体的な内容	所沢市水道事業経営計画に基づき浄水場監視制御装置の更新工事を実施する。令和元年度から令和3年度にかけて、東部浄水場監視制御更新工事を行う。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	実績	1か所	R2実績	R2実績			R3目標値が未達成の理由・分析			浄水場施設・設備全般について、計画的に点検や消耗部品の交換など実施し、予防保全型維持管理に努め、設備の寿命化を図る。第一浄水場電気設備の更新は令和4年度に実施設計、令和5年度から更新を開始する。
		期間		0.85人	0人				①1か所						②1か所
		H23~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	6,943千円	0人	①1か所	②1か所	R4目標			1か所			
	11,970千円	0人	1.50人	0人	③1か所			給水管理課長 村田 孝之							

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)				
				会計	投入コスト	活動実績(R3)	活動実績(R3)	成果指標	総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)				
661	経営課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	マンホール蓋広告については、平成30年度に設置したものが契約期間の満了を迎えるため、設置数の大幅な減少が危惧されたが、広告料体系の見直しと営業活動により減少を最小限に食い止めることができた。イルミネーションマンホール蓋については、営業活動の結果、新たに2箇所のイルミネーションマンホール蓋を設置することができた。検針票広告は、継続して収入を得ることができた。	R3年度に改善した点	16. 平和と公正をすべての人に				
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	3,680千円	1,168千円	①マンホール蓋広告設置箇所数 ②マンホール蓋広告収益 ③検針票広告収益	有料広告用デザイン入りマンホール蓋及びイルミネーションマンホール蓋の設置箇所数の合計	目標設定の考え方・根拠 令和2年度にイルミネーションマンホール蓋広告を28箇所設置したため実績が目標を大きく上回っているが、平成30年度以降に設置したマンホール蓋広告が令和3年度以降に順次契約期間満了を迎えるため、総合計画前期基本計画策定時の目標値をそのまま採用した。	より多くのマンホール蓋広告を獲得するため、①掲載期間延長時の割引②短い掲載期間への対応(3年のみ→3.2.1年)③3箇所以上設置時の割引を目的とする要綱改正を行った。また、市内のイルミネーションマンホール蓋を一覧できるガイドマップを作成し、所沢市観光・物産館YOT-TOKO等で配布することで、更なる周知を図った。								
		根拠法令	所沢市上下水道局マンホール蓋広告の掲載に関する要綱 所沢市上下水道局印刷物広告の掲載に関する要綱	R3予算現額	R3決算額(見込み)				5,267千円			4,486千円			R2目標	R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析
		自主財源確保促進事業(マンホール蓋広告・イルミネーションマンホール蓋広告・検針票広告)【下水道】	事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	0.78人	0人	実績	30箇所			R3実績			61箇所	既存のマンホール蓋広告が順次契約期間の満了を迎えるため、広告主へ期間延長の営業活動を行い、広告の獲得に努める。また、新たな広告設置場所の調査を引き続き研究するとともに、既存広告主へのアフターフォローとして清掃、点灯確認、機器点検等の維持管理を適切に行う。	どのように貢献したか
		期間	H30~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	6,371千円	0人										
						R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	0.99人	0人			R4目標				50箇所	経営課長 草薨 秀夫
						7,900千円											
661	経営課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	「読んで得する・知って得する」をコンセプトに令和元年度に発行した広報紙は、わかりやすく下水道事業を知っていただく契機となった。市のイメージマスコットである「トロロン」と下水道局イメージマスコットである「所沢しずく」の4コマ漫画の連載により、親しみやすい紙面とすることができた。また、多くの利用者から、反響を頂き、積極的な広報活動に理解を得ることができた。	R3年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう				
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	4,511千円	3,314千円	①発行回数	広報紙の発行回数	目標設定の考え方・根拠 例年夏号と冬号の年2回の発行を目標としているが、令和3年度は、11月実施の「マンホールサミット」に向け、効果的な周知をするため、夏号発行を8月からイベント直前の10月に変更する。それに合わせ、冬号の発行を12月から2月に変更する。	R3目標値が未達成の理由・分析			コロナ禍によるマンホールサミットの延期に伴い、予定していたイベント特集記事の掲載が発行直前で不可になったが、延期を見据え同時作成を進めていた「マンホール大図鑑」を代替記事として掲載し、無事発行につなげた。					
		根拠法令	-	R3予算現額	R3決算額(見込み)										4,333千円	3,917千円	R2目標
		イメージアップ事業(ところざわ水物語発行)【下水道】	事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	0.50人	0人	実績	2回			R3実績			2回	さらに利用者にとってわかりやすい情報の充実と、事業への理解を深めていただけるよう、引き続き取り組んでいく。	どのように貢献したか
		期間	R1~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	4,084千円	0人										
						R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	0.58人	0人			R4目標				2回	経営課長 草薨 秀夫
						4,628千円											
661	経営課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		C	新型コロナウイルス感染症の影響により開催を延期したためC評価とした。※令和3年度決算額(1,407千円)については、サミットの企画運営に係る費用を一部執行したほか、抽選会当選者へ配付する景品を作成したものの、マンホール蓋を通じて下水道をより身近なものに感じていただくためには、多くの方にご来場いただく必要がある。そのための仕掛けとして、各種記念品・景品のほか、リレートークや体験型ブースなど来場者の興味をひく各種イベントを企画している。目標来場者数を当初の7,000人に戻し、物価も高騰しているが、経費の上昇を抑えるような調整を行っている。	R3年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう				
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	8,868千円	331千円	①来場者数	①来場者数	目標設定の考え方・根拠 来場者数が下水道事業の「見える化」を図った対象として考えられる。過去のマンホールサミット開催実績より、来場者見込を7,000人とした。なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来場者を半数に制限した。	R3目標値が未達成の理由・分析			R2目標			R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析	新型コロナウイルス感染症の影響によって開催を再延期したため。
		根拠法令	-	R3予算現額	R3決算額(見込み)												
		イメージアップ事業(マンホールサミット開催)	事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	0.70人	0人	実績	7,000人			R3実績			0人	開催延期のため実績なし。	どのように貢献したか
		期間	R2~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	5,718千円	0人										
						R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	1.40人	0人			R4目標				7,000人	経営課長 草薨 秀夫
						11,172千円											
661	経営課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		C	新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止したためC評価とした。	R3年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう				
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	114千円	0千円	①参加者の満足度	参加者の満足度(実施後のアンケートで「とても楽しかった」又は「楽しかった」と回答した人数の割合)	目標設定の考え方・根拠 参加者の満足度の高さによって、参加者が下水道についての知識・理解・関心をより深められたと考えられるため、満足度90%を目標とした。	R3目標値が未達成の理由・分析			R2目標			R2実績	R3目標値が未達成の理由・分析	新型コロナウイルス感染症の影響によって開催を中止したため。
		根拠法令	-	R3予算現額	R3決算額(見込み)												
		イメージアップ事業(上下水道施設見学)	事業の具体的な内容及び目的	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	0.20人	0人	実績	90.0%			R3実績			0.0%	コロナ禍においても実施可能な代替案を研究し、準備を進めていく。	どのように貢献したか
		期間	R2~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	1,634千円	0人										
						R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	0.30人	0人			R4目標				90.0%	経営課長 草薨 秀夫
						2,394千円											

計画コード	所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)		
				会計	投入コスト		活動実績(R3)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
663	下水道維持課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	改善要望は対応できている。外部情報を受けると直ちに現地確認を行い迅速に対応した。	R3年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を	15. 陸の豊かさを守ろう		
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	2,331,831千円	2,211,274千円	①1年間に清掃した管渠延長 ②1年間に取替えたマンホール蓋の個数 ③1年間に外部情報により実施したテレビカメラ調査箇所 ④1年間に受けた改善要望件数	改善要望対応件数	マンホール蓋のガタツキ、振動、騒音、下水道管の詰まり、臭気、溢れ等の改善要望件数に対し、改善が完了した割合とする。 すべての要望に対応する「100%」を目標とする。							
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	2,104,874千円	1,926,764千円	R2目標	R2実績						R3目標値が未達成の理由・分析	
		下水道法	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	14.50人	0人	R3目標	R3実績						100.0%	100.0%
		事業の具体的な内容及び目的	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	118,436千円	0人	R4目標	R4実績						100.0%	100.0%
		重要なライフラインである下水道を適切に維持管理し、その機能を発揮させ継続的に利用できる環境を整える。 ①土砂及び油脂の堆積による流下能力の低下を防ぐための下水道管渠清掃 ②老朽化している施設の更新 ③下水道施設から発生する臭気対策、不明管・浸入水等のテレビカメラを使用した原因調査 ④降雨災害防止のための対策及び巡視 ⑤市内ポンプ場・調整池等の適切な運転管理、監視・安全管理の徹底	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	12.10人	0人	実績	100.0%						100.0%	100.0%
期間	S33~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	96,558千円	0人	①4,874m ②581個 ③34箇所 ④82件	目標達成済	目標達成済							
663	都市下水道維持管理課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	定期的な調整池等の除草・スクリーン清掃等を実施し、適切な維持管理と事故防止の徹底を図った。	R3年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	13. 気候変動に具体的な対策を		
		重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	71,277千円	59,502千円	①1年間にしゅんせつした堆積土の量 ②1年間に除草した面積	調整池等の点検回数(除草・スクリーン清掃等)	調整池及び水路等の適切な維持のため、週1回のパトロールを実施することとし、年間50回を目標とする。							
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	78,755千円	52,491千円	R2目標	R2実績						R3目標値が未達成の理由・分析	
		下水道法	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	4.70人	0人	R3目標	R3実績						50回	59回
		事業の具体的な内容及び目的	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	38,390千円	0人	R4目標	R4実績						50回	56回
		浸水のない快適な都市環境を保持し、市民の安全で快適な生活を守るため、都市下水路及び調整池を適切に管理する。 ①堆積土のしゅんせつ ②除草、樹木の剪定 ③施設の補修及び改良工事 ④降雨災害防止のための対策及び巡回	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	3.55人	0人	実績	50回						56回	50回
期間	S45~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	28,329千円	0人	①360㎡ ②68,410㎡	目標達成済	目標達成済							
664	下水道維持課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	C	R3年度は更生工事の一部が繰り越しとなり、実績には計上することができなかったものの、所沢地区の改築と毎年度約30kmのビデオカメラ調査の双方が順調に進展している。	R3年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を	9. 産業と技術革新の基盤を作ろう		
		優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	168,035千円	121,533千円	①改築延長 ②テレビカメラ調査延長	改築延長	緊急度 I ないし II における改築工事の計画及び実施延長を指標とする。							
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	266,151千円	121,363千円	R2目標	R2実績						R3目標値が未達成の理由・分析	
		下水道法 所沢市下水道ストックマネジメント実施方針	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	4.30人	0人	R3目標	R3実績						226m	382m
		事業の具体的な内容及び目的	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	35,122千円	0人	R4目標	R4実績						718m	230m
		平成29年度に策定した「所沢市下水道ストックマネジメント実施方針」に基づき、予防保全を中心とした計画的な維持管理等を行い、事業費の平準化を図るとともに下水道機能を持続的に確保するものである。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	5.25人	0人	実績	720m						更生工事の一部(2本)が繰り越しとなり、実績に計上できなかったため。	
期間	H23~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	41,895千円	0人	①230m ②30km	目標達成済	目標達成済							
664	下水道維持課	実施計画ランク	事業の種類	R2予算現額	R2決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠	A	テレビカメラ調査の実施により、対策への準備が着実に進んでいる。	R3年度に改善した点	9. 産業と技術革新の基盤を作ろう	11. 住み続けられるまちづくりを		
		最優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	69,391千円	67,348千円	①テレビカメラ調査延長 ②汚水管詳細設計業務委託延長	テレビカメラ調査延長	下水管改築等の準備段階として、既設下水管のテレビカメラ調査の計画及び実施延長を指標とする。							
		根拠法令	R3予算現額	R3決算額(見込み)	69,391千円	67,348千円	R2目標	R2実績						R3目標値が未達成の理由・分析	
		下水道法 雨天時浸入水対策ガイドライン(国)	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	2.80人	0人	R3目標	R3実績						11,232m	11,232m
		事業の具体的な内容及び目的	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	22,344千円	0人	実績	5,600m						①11,232m ②1812.2m	目標達成済
		近年、下水道施設の老朽化に伴い、台風やゲリラ豪雨などの雨天時に汚水管への雨水の流入を起因としたマンホール蓋の飛散、溢水、宅地内への逆流等の被害が多発している。これを受けて、発生原因箇所への対策として汚水管の改築や雨水施設の設置等を行うことで汚水管へ浸入する雨水の量を抑制するとともに、施設対策として汚水貯留施設等を築造し流量の調整を行うことで、下流への流下量を低減させるものである。	R2正規職員人件費	R2その他職員従事割合	2.80人	0人	実績	5,600m						①11,232m ②1812.2m	目標達成済
期間	R3~	R3正規職員人件費	R3その他職員従事割合	22,344千円	0人	①11,232m ②1812.2m	目標達成済	目標達成済							

